

2018年2月12日
福島 SiC 応用技研株式会社

福島 SiC 応用技研株式会社 Angel Bridge 株式会社らを引受先とする 3.4 億円の第三者割当増資を実施

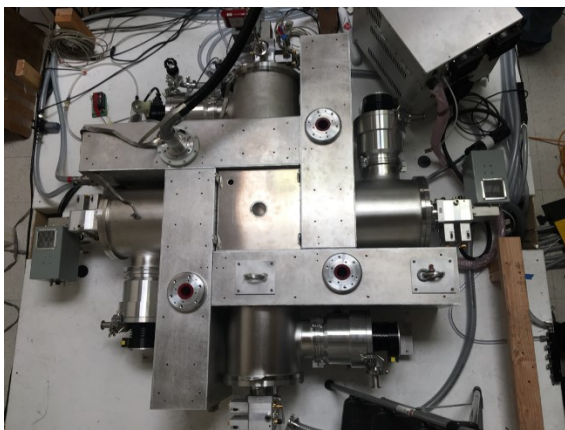
福島 SiC 応用技研株式会社(本社:福島県双葉郡楢葉町、代表取締役社長 古久保 雄二)は、Angel Bridge 株式会社らを引受先とする第三者割当増資により 3.4 億円の資金調達を実施いたしました。

<増資金額内訳>

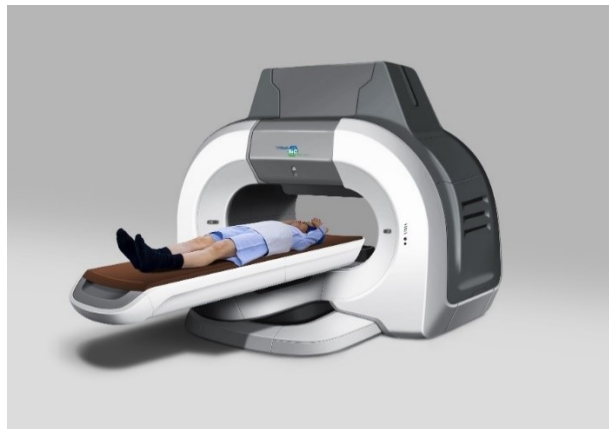
- Angel Bridge 株式会社(本社:東京都港区、共同代表 河西 佑太郎、井上 北斗) 3.0 億円
- フューチャーベンチャーキャピタル株式会社運用ファンド(本社:京都府京都市、代表 松本直人) 0.3 億円
- 経営陣 0.1 億円

当社は、津波・原子力災害被災地域雇用創出企業立地補助金制度を活用して、BNCT^注技術を応用した多門照射式放射線がん治療装置 SiC-BNCT の開発を行って参りました。世界初の SiC 半導体(炭化ケイ素を用いた化合物半導体素子)による大電流静電加速器技術の放射線がん治療装置への適用開発です。本開発では、X 線治療装置相当の小型化・低コスト化を図りながら、重粒子線治療相当の腫瘍細胞破壊力を有する放射線がん治療装置の製品化を目指します。また、従来の放射線治療では困難であった、体深部のがん治療や、広範囲に広がる微小浸潤がん治療の実現を目指します。

現在、SiC-BNCT 非臨床試験機(4 門照射)の開発を完了し、この度の増資により、SiC-BNCT 臨床試験機(10 門照射)の製品化に向けた開発を加速して参ります。なお、SiC-BNCT 臨床試験機は、2019 年 1 月頃の開発完了を予定しています。



SiC-BNCT 非臨床試験機の写真



SiC-BNCT 臨床試験機のイメージ

(注)BNCT: Boron Neutron Capture Therapy ホウ素中性子捕捉療法

中性子線を用いた放射線がん治療法です。中性子と反応しやすいホウ素薬剤を腫瘍細胞に取り込ませ、中性子とホウ素との反応を利用して、腫瘍細胞のみを選択的に破壊する治療法です。

[福島 SiC 応用技研株式会社]

SiC 半導体を用いたパワーエレクトロニクス製品の開発、及び製造販売を主力事業としている技術ベンチャーです。SiC 半導体の社会実装を促進するとともに、従来の Si 半導体では実現が困難であった革新的なパワーエレクトロニクス技術の開発、及びその応用製品を市場に提供することで震災復興への貢献を目指しています。

会社ホームページ: <http://www.fukushima-sic.co.jp/>

[Angel Bridge 株式会社]

日本最大規模のエンジェル投資家グループを擁し、良質かつ豊富な資金を優れた企業に提供する。エンジェル投資家は、世界トップクラスの金融機関で成功を収めた方々、日本を支える優良企業のオーナーの方々などで構成され、資金力のみでなく、質においても他に類をみないレベルの投資家グループと言える。

会社ホームページ: <http://www.angelbridge.jp/>

[フューチャーベンチャーキャピタル株式会社]

京都に本社を置く独立系ベンチャーキャピタルとして、創業以来、時代の変化に対応しながら戦略的に事業領域を拡大している。現在の事業領域は、創業支援を中心とした地方創生ファンドの組成をはじめ、事業会社との CVC ファンドの組成のほか、社会課題の解決と事業の利益の両立を目指す CSV の取り組みなどを強化している。

会社ホームページ: <https://www.fvc.co.jp/>

この件に関するお問い合わせ先

福島 SiC 応用技研株式会社 取締役 石本 学

メールアドレス: manabu.ishimoto@fukushima-sic.co.jp